

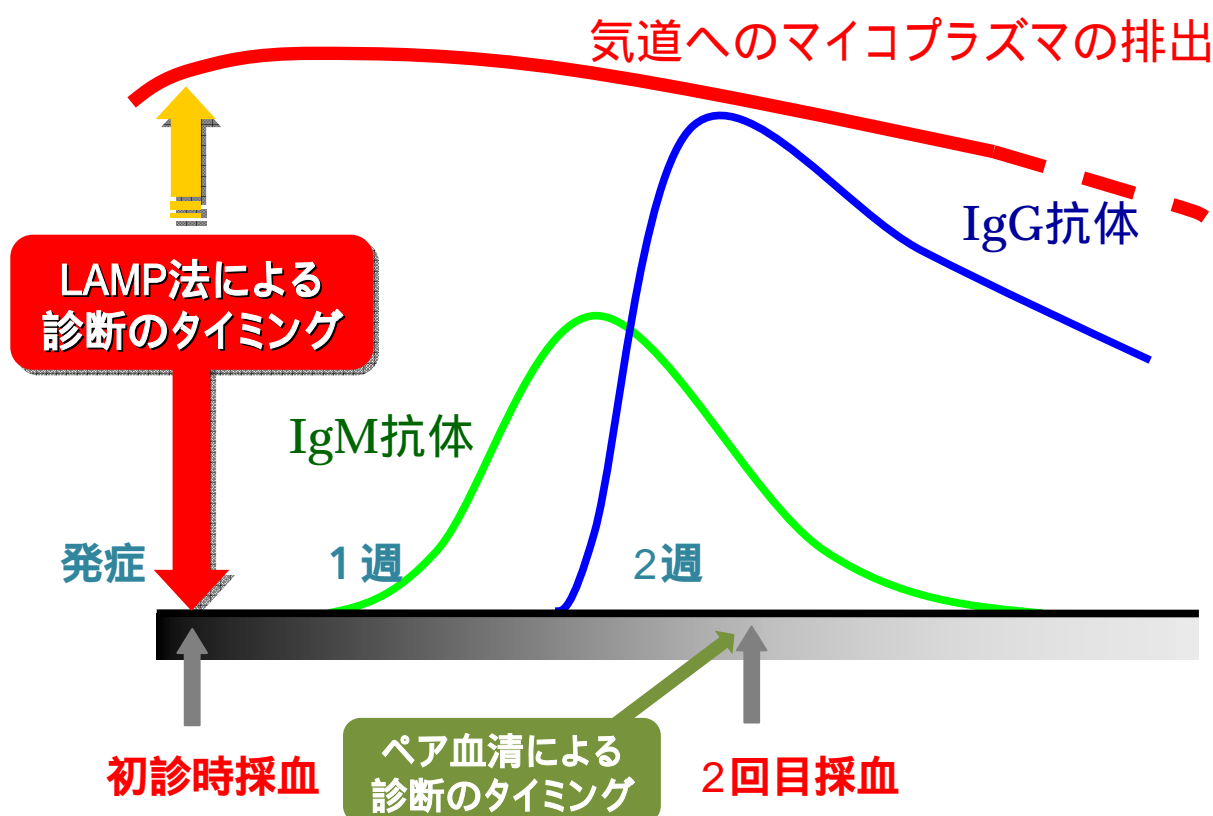
高感度の遺伝子増幅法ならマイコプラズマ肺炎の発症初期から診断が可能です。

LAMP法 (Loopamp®マイコプラズマP検出試薬キット)

保険収載: マイコプラズマ核酸検出 300点

微生物学的検査判断料 150点

**既存の検査方法とは診断のタイミングが違います！
エビデンスに基づく治療が可能となります！**



発症後1週間以内と、2～3週間後の回復期の2回、抗体価を測定し、上昇しているかどうかを調べるため発症後すぐには診断できません。

Loopamp®マイコプラズマP検出試薬キット (LAMP法試薬キット) の臨床性能試験において、LAMP法試薬キットと培養法の一貫率は 95.2 % (197/207) で、抗マイコプラズマ抗体価試験と培養法の一貫率は 91.8 % (190/207) でした¹⁾。

また、LAMP法試薬キットによる結果と臨床診断との一貫率は96.1% (199/207) でした²⁾。

LAMP法と既存の検査方法との違いは？

培養法

確実な診断方法ですが、特殊な培養法が必要で判定まで1週間以上かかります。抗菌薬投与後の材料では培養できない場合があります。

血清抗体価

PA法；主にIgM抗体による反応で、単一血清でも診断可能ですが、正確にはペア血清による抗体の変動（4倍以上）をとらえる必要があります、1～2週間を要する場合があります。

CF法；主にIgG抗体による反応で、PA法と比べて抗体価上昇が遅く、長期にわたり高値を示すため、早期診断には適しません。

LAMP法（Loopamp®マイコプラズマP検出試薬キット）

マイコプラズマニューモニエの特異的DNAを直接検出する遺伝子検査法で、検体中にマイコプラズマニューモニエが一定数以上（検出感度以上）存在すれば検出可能です。

LAMP法と培養法との相関性

		LAMP法		
		+	-	計
培養法	+	59	1	60
	-	9	138	147
	計	68	139	207

陽性一致率： 98.3%

陰性一致率： 93.9%

全体一致率： 95.2%

LAMP法の判定結果と臨床診断との相関性

		LAMP法		
		+	-	計
臨床診断	+	68	8	76
	-	0	131	131
	計	68	139	207

陽性一致率： 89.5%

陰性一致率： 100.0%

全体一致率： 96.1%

【受託要項】

項目コード	項目名	検体量	容器	実施料 判断料	所要 日数	検査 方法	基準値	備考
			保存					
3456	マイコプラズマ ニューモニエ 核酸検出	鼻咽頭 分泌物	F6	300点 (微生物)	3~5日	LAMP法	(-)	本検査法ではコンタミネーションの影響が大きくなりますので、検体の採取に当たっては、取り扱いに十分ご注意ください。他項目との重複依頼は避け、単独検体でご提出ください。 単独でない場合、参考値となります。
			凍結					
		喀痰 1mL	/					
			冷蔵					

受託は指定容器でのご提出に限らせていただきます。

指定容器につきましては最寄りの営業所へお問い合わせください。

- 1) 山口恵三 他；LAMP法を用いた Mycoplasma pneumoniae と Legionella spp.による呼吸器感染症の迅速診断試薬の評価. 医学と薬学 58(4) 2007
- 2) 製品添付文書